

## 判断(4) 君ならどうする？

地域医療で外科医として修業しているときは、まさに**国家試験で勉強した多種類の疾患**が飛び込んでくる。いつなんどきも最適と思われる治療を患者さんに進めなければならない。

癌の疑いを持つ患者さんとどう向き合うか？**甲状腺腫瘍**に針生検より、腫瘍摘出して確実な病理を求めたいと当時考えた。**外科医4年目**に経験した症例を紹介します。

患者さんと向き合い‘**active surveillance**’ができるのも地域医療のだいご味でしょう。

# 症例: 57歳 女性

主 訴：左頸部腫張

既往歴：特記なし

現病歴：昭和61年7月頃上記に自覚する。

痛まないが気になり10月4日当科受診。

受診時所見：



表面平滑

4 × 2 cm Soft tumor

甲状腺機能異常所見なし。

血液検査所見：

RBC	414	T <sub>3</sub>	1.6	ng/ml
Hgb	12.6	T <sub>4</sub>	7.8	μg/dl
Hct	37.2	free T <sub>3</sub>	1.39	ng/dl
WBC	6800	free T <sub>4</sub>	3.3	pg/ml

手 術：昭和61年11月6日

Left hemi thyroidectomy

病 理：follicular adenoma

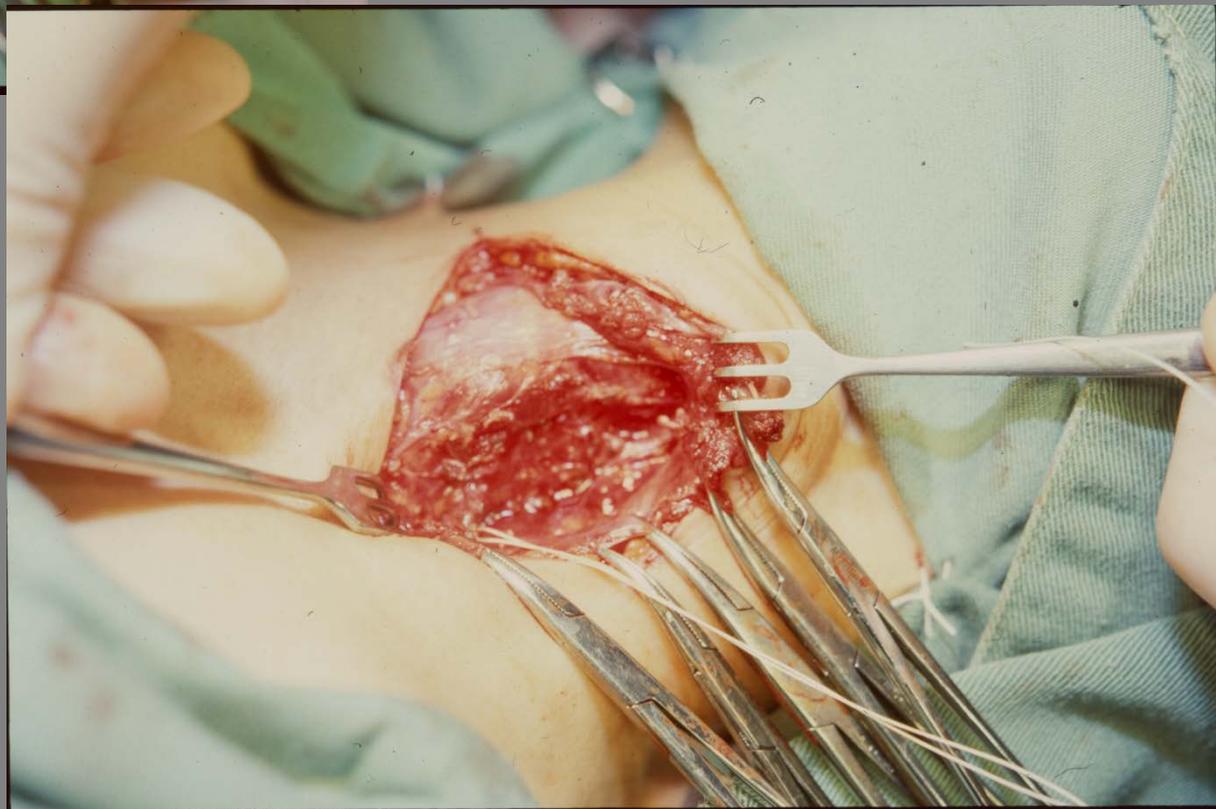
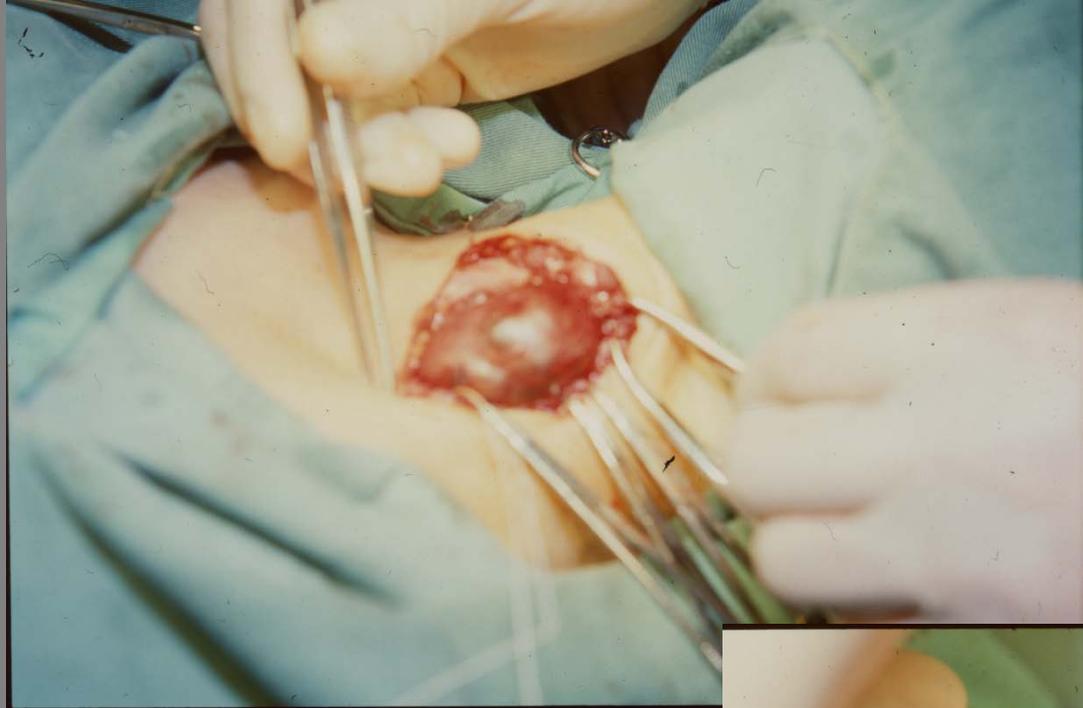
# 頰部エコー



# 頰部CT









症 例：72歳、女性

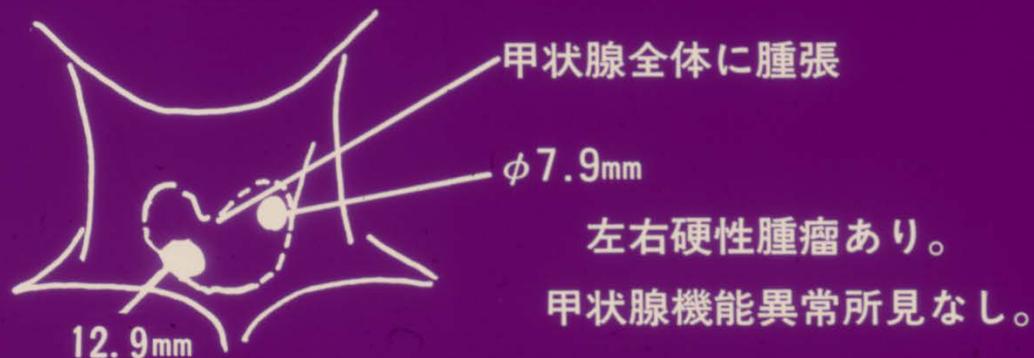
主 訴：頸部異和感

既往歴：昭和51年より糖尿病で治療中(当院内科)

現病歴：昭和61年9月頃上記出現、当院耳鼻科受診、  
甲状腺シンチグラムのため他院紹介。

甲状腺腫指摘され当科紹介される。

受診時所見：



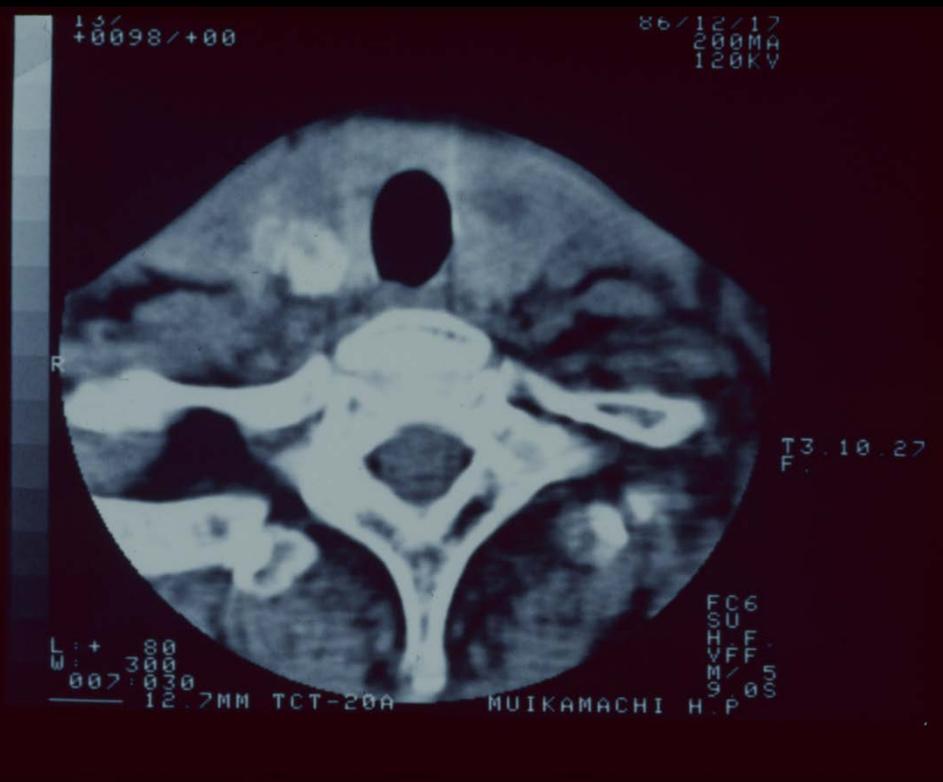
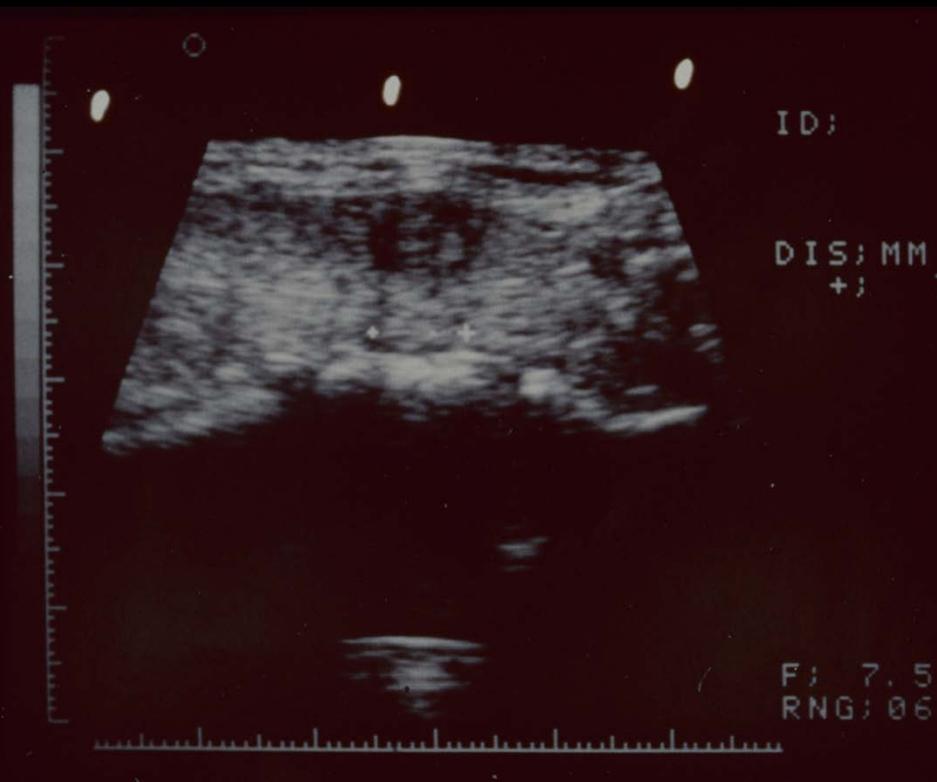
血液検査所見：

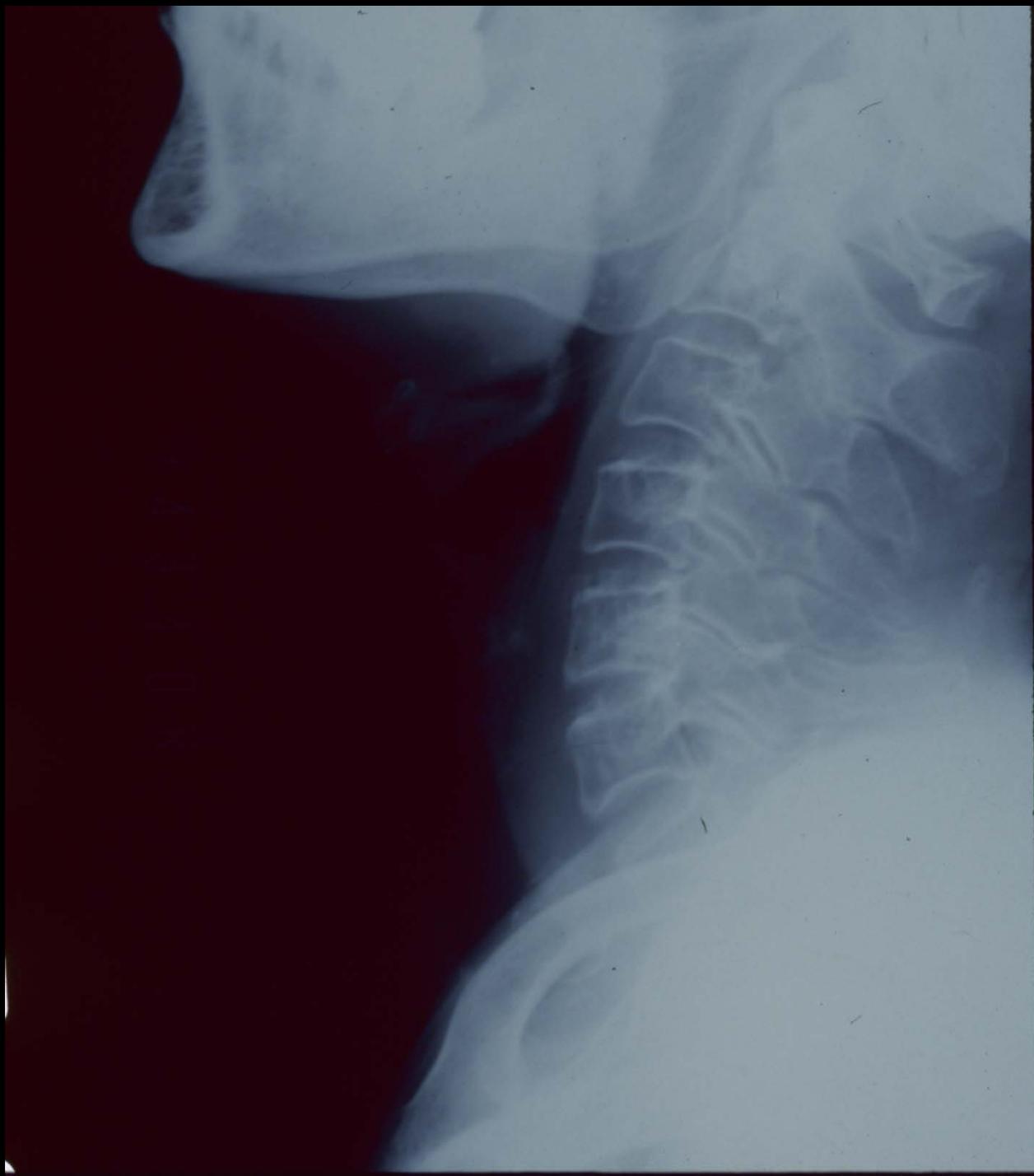
RBC	463	T <sub>3</sub>	1.1	ng/ml
Hgb	14.6	T <sub>4</sub>	9.5	μg/dl
Hct	42.5	free T <sub>3</sub>	1.62	ng/dl
WBC	9100	free T <sub>4</sub>	3.2	pg/ml

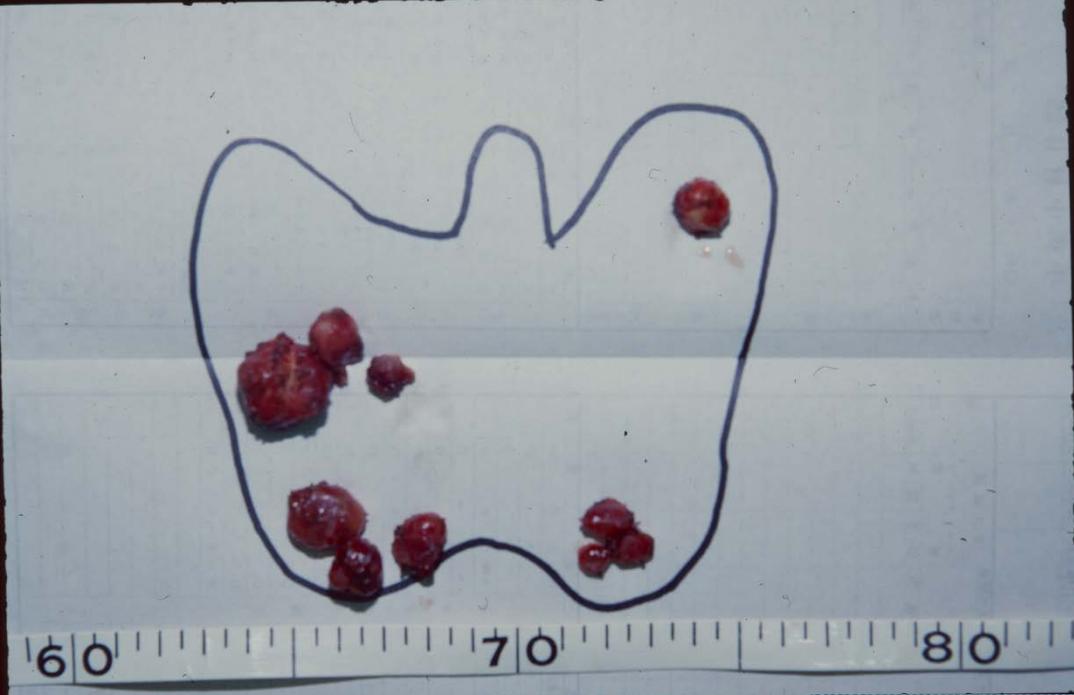
手 術：昭和61年12月18日

# 頰部エコー

# 頰部CT









症 例：34歳、女性

主 訴：頸部腫張

既往歴：昭和58年十二指腸潰瘍内服治療

現病歴：昭和62年2月頃上記自覚。3月3日当科受診  
する。

受診時所見：



血液検査所見：

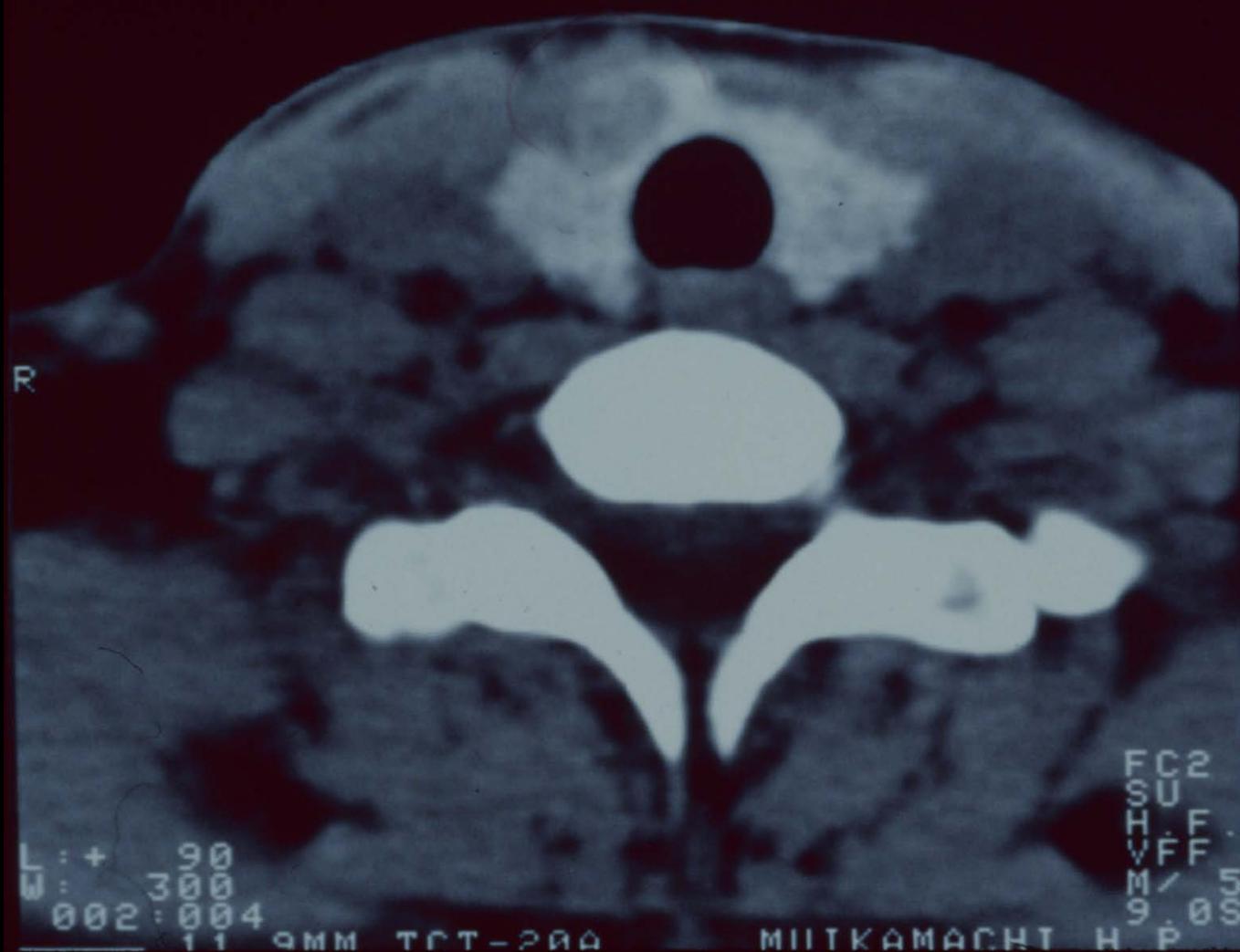
RBC	389	T <sub>3</sub>	1.0	ng/ml
Hgb	11.7	T <sub>4</sub>	6.6	μg/dl
Hct	35.9	free T <sub>3</sub>	1.32	ng/dl
WBC	4400	free T <sub>4</sub>	4.0	pg/ml

手 術：昭和62年4月20日

Enucleation

5624  
04/  
+0186/+00

T. KITAMURA  
87/03/04  
200MA  
120KV



MS28.3.14

EL : +  
: : 3  
002 : 009  
: : 000  
: : 004

9MM TCT-200

MITKAMACHI H

FC2  
SU  
VFF  
P  
93  
000



By LUCETTE LAGNADO

2015年10月21日 12:07 JST

がんを治療すべきか、すべきでないかについて、議論が白熱しつつある。  
ごく小さな甲状腺がんさえ積極的な治療を施す状況が何年も続いているが、米国と日本の有名な研究者たちは論文で、古い慣行を見直すよう勧め、多くの早期がん患者は経過をみながら待つのが効果的かもしれないと述べている。

米国甲状腺協会の専門誌「Thyroid(甲状腺)」掲載の二つの論文によると、小さな甲状腺がんを持つ患者を検査・診察しながら見守るこの方法は「**活発な監視療法**」とも呼ばれ、成長したり転移したりしそうにないがんの摘出手術に代わる可能性がある

**Papillary thyroid microcarcinoma: time to shift from surgery to **active surveillance**?**

Leboulleux S, Tuttle RM, Pacini F, Schlumberger M.

Lancet Diabetes Endocrinol. 2016 Nov;4(11):933-942. doi:

10.1016/S2213-8587(16)30180-2. Epub 2016 Aug 20. Review

# 判断(4) 君ならどうする？

医師は**自分の知識、技術を的確に把握**して、自分の能力を超えることはやってはならない。

それでは、地域にいてこれまで処置したことのない症例とどのように向かい合えばいいのか？

答えは簡単である。患者さんを自分の家族と思い、**信頼できるその分野の専門家に相談**すればよい。

卒業したての研修医にとって**スーパーローテ**は、そんな先輩医師を見つける大事な時でもある。

**(1) 正中頸嚢胞**

**(2) 側頸嚢胞**

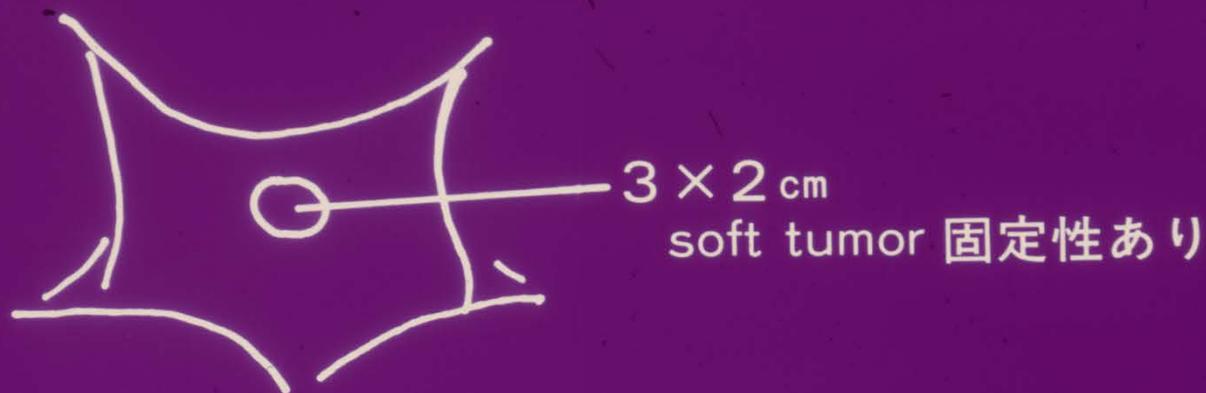
症 例：2歳、女児

主 訴：頭部腫瘍

既往歴：1歳時よりテンカン治療中。

現病歴：昭和60年5月頃上記に気づき、当院小児科受診。  
7月6日当科紹介される。

受診時所見：

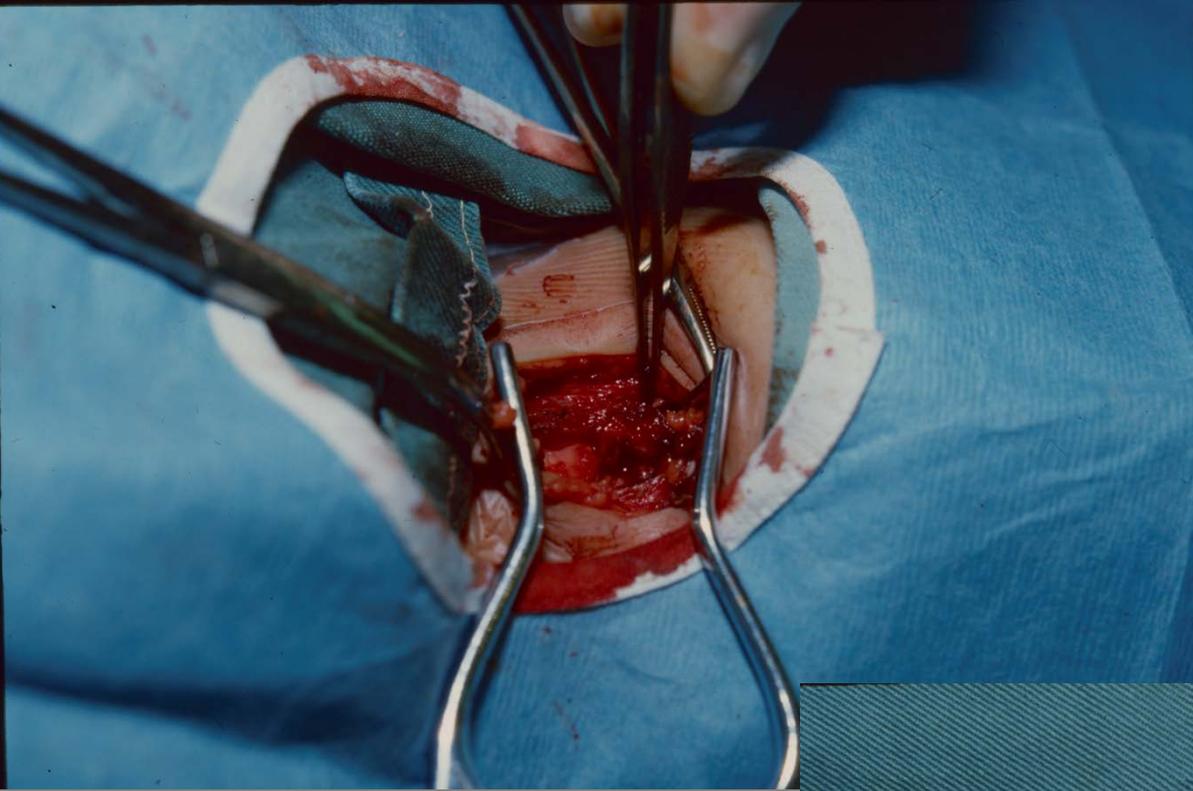


手 術：昭和60年7月22日

Sistrunk methord







症例：4歳 女児



側頸部嚢胞の感染